

# 三分団の県大会までの道のり



なすまさひこ  
指揮者 奈須昌彦  
「最高の操法ができました。」



さかいゆうき  
一番員 酒井優樹  
「火点目がけて真っすぐ走りました」



ありまなおき  
二番員 有馬直希  
「ホース延長に気を付けました」



おもかわいっぺい  
三番員 面川一平  
「とにかく、速く走りました」



ほしゆうじ  
四番員 星雄之  
「水を速く出すことだけを考えました」



## 地域の安全・安心に

集団行動が希薄している中、職業を異にする若者が、目的をひとつに訓練に取り組み、そして達成できたことは大きいと思います。これは、地域の安全・安心に繋がると思います。

須賀川消防署鏡石分署  
館 川 博 司 分署長



## 団員一丸となって取り組んだ操法

選手は厳しい訓練頑張ったと思います。大会ひとつ勝ち抜くたびにレベルが上がっていききました。団員がそれぞれの役割を責任持って、一致団結して取り組むことができたことは一生の宝物です。

町消防団第三分団  
佐 藤 浩 一 分団長

町消防団第三分団は、8月24日(日)県消防学校(福島市)で開催された第36回県消防操法大会に町、そして須賀川支部を代表して出場しました。ここでは、第三分団の町大会からの活躍と県大会までの軌跡を追いかけてみました。

## 2か月以上に渡る訓練

8月3日(日)天栄村を会場に行われた須賀川支部大会で優勝した第三分団は、第36回福島県消防操法大会への出場権を獲得しました。ポンプ操法は、火災現場を想定して行われ、競技時間や動作の正確性などが競われます。

第三分団の選手は、6月から県大会まで2か月以上に渡り訓練してきました。訓練は、朝5時に集合して開始され、

選手は厳しい訓練に汗だくになりながらも操法に打ちこみました。始めの頃は暑かった気候も、終わりの頃には肌寒くなっていました。次々と苦手な部分を克服していききました。時には指導員から厳しい言葉が寄せられ、時には労いの言葉も掛けられました。

## 練習の成果を本番にぶつける

そして、迎えた県大会当日。あいにくの雨の中、選手はしぶ濡れになりながらも競技に挑みました。出場順番は7番目の絶好の位置。木賊町長を初めとした大応援団が駆け付け、選手は練習の成果を本番の1本にぶつけました。水がスルスルとホースを伝って放水されると、応援団からは歓喜の声が沸き起こりました。

競技が終了すると、選手控え所のテントでは、応援団から選手へ盛大な拍手が送られました。結果は、入賞こそ逃しましたが、選手心が一つになった素晴らしい競技でした。

町大会から  
県大会までの  
足あと

